

2014 年度活動報告書

特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪

2014 年度 事業報告

I. 事業期間

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

II. 2014 年度総括

「多文化共生センター」として発足した 1995 年 10 月から、まもなく 20 年を迎えます。今年度も活動報告を発行できることをうれしく思うとともに、地域に暮らす外国にルーツを持つ人々の状況が、20 年前と比べてどのくらい良い方向に変革できたのか、まだまだ成すべきことが多いのではないかと再認識した 2014 年度でした。「サタデイクラス」など長年取り組んでいる活動や、前年度に新しく始めた 2 つのチャレンジを継続するとともに、「担い手としての外国人住民」への視点に着目した新しい事業にも着手できました。ご支援いただいたみなさんはもとより、ボランティア・スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

今年度は学校法人山口学園のご協力で「サタデイクラス」が新たに教室を増やしたり、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングのご支援で「TABUNKA SHINGAKU JUKU」への経営コンサルティングを受けたりと、外部の方々からのお力添えで活動の質と量を改善することができました。また大阪国際交流センターの「外国人コミュニティ連携事業」では今後 5 年かけて、外国人住民が担い手となって大阪の多文化共生を推進するプラットフォームの構築に着手することとなりました。こうした新しい機会に恵まれたことをしっかりと受けとめ、次年度以降に活かしていきたいと思っております。今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。

(文中、敬称を略しました)

代表理事 田村太郎

III. 事業の実施状況

<定款に定める事業>

特定非営利活動に係る事業

1. 日本で生活する外国人への支援活動
2. 多文化共生に関する研修、調査、研究
3. 多文化共生の概念を普及するための啓発及び情報発信
4. 前各号を実施するための、その他の支援事業

1 日本で生活する外国人への支援活動

サタデイクラス（外国人小中学生対象の学習支援教室）

2012 年 9 月に中央区より淀川区に移転し、3 年目を迎えた。多くの外国にルーツをもつ子どもたちが毎週土曜日淀川区十三教室にて勉強に励んだ。多くの子どもたちの受け入れを行った結果、教室内に人が溢れ、落ち着いた学習環境の確保が困難となった。そこで、学校法人山口学園社会貢献センター様のご協力のもと、2014 年 5 月より ECC 国際外語専門学校の 1 教室をお借りし、北区中崎町教室を設置。

十三教室と中崎町教室の2箇所を拠点として、子どもたちの学習支援活動を行っている。主な取り組みは以下の通り。

1) 学習支援教室の開催

概要：英語、数学を中心とした教科支援や日本語の学習を実施し、また中学に在籍せず直接、高校を受験する子どもを受け入れ、志望校合格を目指した。

■実施回数：十三教室 39 回、中崎町教室 33 回

■参加者数： 学習者登録数 35 人、ボランティア登録数 26 人（2015 年 3 月末現在）

■学習者の出身国：中国、フィリピン、タイ、ペルー、アメリカ、ブラジル

■受験生：今年度の受験生数は 12 名（出身国別人数：中国 6 名、フィリピン 2 名、タイ 3 名、ペルー 1 名）で、全員が全日制高校あるいは大学に合格した。

■学習者： 各教室毎回 10 名前後の子どもたちが出席した。

2) ボランティア体験講座の開催

ボランティアに参加したい方を対象に、毎月第 2 土曜日にボランティア体験を開催した。外国にルーツをもつ子どもの背景やサタデイクラスの活動について説明した後、活動に参加してもらった。16 名の参加者があった。

3) クリスマス会

サタデイクラスに通っている子どもを中心として、様々な国の子どもたちとボランティアが集まり、母語による交流や国籍・言語を越えた交流を目指す場としてクリスマス会を実施した。

実施時期： 2014 年 12 月 20 日（土）13:00～17:00

対 象：ボランティア、学習者、他団体協力者など

内 容：ケーキ作り、マジックショー、クイズ、ビンゴ大会

場 所：ダイバーシティラボ大阪セミナールーム

協力団体：大阪ガス株式会社、富士ゼロックス株式会社、豊崎中学校日本語教室

4) ボランティアスキルアップ講座

毎回のボランティアミーティングで子ども一人一人の学習状況や背景について意見交換を重ねて理解を深めた。また、不定期のロングミーティング、メーリングリストによる情報交換によりボランティア参加者の意識向上が得られた。

5) 十三市（地域のフリーマーケット）への参加

地域の人との交流を通して、サタデイクラスの活動について知ってもらうきっかけとなった。また、サタデイクラスの活動資金をボランティアだけでなく子どもたちもいっしょに集めることにより、自分

たちの教室はみんなで協力して運営しているのだという意識付けにもなった。

日時：2014年9月13日（土）9:00～13:00

場所：神津神社（活動場所のダイバーシティラボ大阪セミナールーム隣）

6) おつかれさま会

大学受験、高校受験を終えた子どもたちを中心に、1年間サタデイクラスに参加し勉強をがんばった子どもたち、熱心に参加してくれたボランティアに参加してもらい、今年度の振り返り、来年度の目標を共有する場とした。今年度もボランティアの協力のもと、お抹茶体験を実施した。

日時：2015年3月14日（土）15:00～17:00

参加者：子ども16名、ボランティア14名

場所：ダイバーシティラボ大阪セミナールーム

【実施場所】大阪市内

【時期】通年（毎週土曜日）

【対象者】主に6～18歳程度の子ども

TABUNKA SHINGAKU JUKU（中学生対象の学習塾）

外国にルーツをもつ子どもたちを対象とした学習塾。2014年度も大阪市ボランティア活動振興基金助成を受け、実施した。また、三菱UFJリサーチアンドコンサルティング株式会社様よりソーシャルビジネス支援プログラムの助成を受け、塾運営基盤についても強化を図った。取り組みは以下のとおり。

1) 学習指導

通常コース

受講生：8名（中国6名、タイ1名、フィリピン1名）、

実施期間：通年実施：（毎週月曜日 16:30-20:30）

月謝：日本語コース 5000円/1ヶ月、数学・英語コース 10000円/1ヶ月

授業体制：集団授業、1コマ70分

冬期直前コース

受講生：4名（中国4名（うち2名は通常コースも受講））

実施期間：2014年12月17日～2015年2月20日 全12回コース

月謝：数学・英語コース 25,000円/1ヶ月

授業体制：個別指導（講師1：生徒2）、1コマ90分

2) カリキュラム・教材開発

受験科目に必要な日本語・英語・数学を中心に作成した。

3) 講師養成講座の実施

専門的スキルをもつ講師養成講座を実施。講座を修了した3名を講師として認定した。

講座内容：第1回 外国にルーツをもつ子どもたちの現状

第2回 日本語学習、母語支援について

第3回 塾見学、教案作成

第4回 模擬授業

第5回 教育実習

4) 広報

他言語による Web サイト設置、チラシを作成・配布した。また、当センターfacebook ページで情報を提供を行った。

5) 「高校合格のためのセミナー」を実施

日時：2014年12月7日（日）

場所：ダイバーシティラボ大阪セミナールーム

内容：入試制度の説明、高校入試問題の傾向と対策

参加者：4名（中国2名、タイ2名）

【実施場所】大阪市淀川区

【時期】通年

【対象者】外国にルーツをもつ中学生及び母国で中学校を卒業した子ども

「多文化進路ガイダンス」への協力

来日間もない外国人児童生徒やその保護者が日本の教育システムや受験制度の成立ちを理解するのは難しい。日本の子どもたちと同様、外国人の子どもたちも希望すれば高校に進学できるよう、府内の高校で多文化進路ガイダンスを実施した。

主催：「多文化進路ガイダンス」実行委員会

（財）大阪国際交流センター、大阪府立学校在日外国人教育研究会

大阪市外国人教育研究協議会、（特活）多文化共生センター大阪

後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

協力：地域人権教育推進委員会、大阪府在日外国人教育研究協議会

1) 第1回多文化進路ガイダンス

日時：2014年7月18日（金）15:00～16:30

場所：大阪市立西高等学校

内容：言語別での進路説明

教職員むけの進路説明・高校との交流

高校生との交流

2) 第2回多文化進路ガイダンス

日時：2014年9月28日(日)

場所：大阪国際交流センター

内容：高校別個別ブースにて、個別相談会

【実施場所】大阪府内

【時期】2014年7月18日、2014年9月28日

【対象者】大阪府内の中学生とその保護者

「Minami こども教室」への協力

大阪府中央区内の小学校では、国籍が13カ国以上の子どもたちが在籍し、その中には、日本語での学習に困難を抱えたり、仕事が忙しい保護者との時間が持てず、1人で過ごすケースが多くみられる。このような外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援と居場所作りのため、「Minami こども教室」が立ち上がった。当センターでは、実行委員会への参加、コーディネーターの派遣を実施し、協力した。

実施日時：毎週火曜日（通年）

実施場所：中央区子ども子育てプラザ

実行委員会構成員：（特活）関西国際交流団体協議会、（特活）コリア NGO センター、（特活）多文化共生センター大阪、公益財団法人大阪国際交流センター、大阪市立南小学校、大阪大学未来戦略機構、日本語教育経験者

【実施場所】大阪府中央区子ども子育てプラザ

【時期】通年（毎週火曜日）

【対象者】大阪府中央区内の小学校に通う外国にルーツをもつ子ども

文化庁委託事業「定住外国人のための「生活の漢字」学習支援」

文化庁からの委託を受け、定住外国人のための「生活の漢字」学習支援を実施した。日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、日常生活において必要な漢字を認識し、自律学習の習慣を身につけてもらうこと（教室設置）、漢字学習支援者の養成（ボランティア養成講座）、漢字学習教材のデジタル化（教材作成）を事業目標とする。

留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」と呼ばれる外国人住民は、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。また、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案に文字言語の視点を加えた案を作ることを視野に入れた取り組みとする。

なお、本講座を開催するにあたり、大阪市立総合生涯学習センターに多大なるご尽力をいただいた。

事業概要：本年度は、3つの事業を実施した。

- 1) 日本語教室の設置・運営
- 2) 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
- 3) 日本語教育のための学習教材の作成

以下、各々の事業内容詳細を記載する。

- 1) 日本語教室の設置・運営

講座名称：外国人のための「生活の漢字」教室 ～パソコンで楽しく漢字を学ぼう～

講座実施期間：2014年7月9日～2014年11月26日

毎週水曜日 13時30分～16時30分 全20回（60時間）

実施場所：大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室（視聴覚室）および研修室

*月に1回は教室で書くこと中心の活動、その他の日はパソコンを用いて授業を行った。

実施内容：

回	開催日	トピック
1	7月9日	開講式：パソコンの操作、かな入力、ニーズ調査
2	7月16日	カレンダー
3	7月23日	市役所・区役所
4	7月30日	市役所・区役所
5	8月6日	ベーシックストローク
6	8月20日	駅
7	8月27日	買い物1
8	9月3日	習った漢字を整理しよう
9	9月10日	買い物2
10	9月17日	入局管理局1
11	9月24日	入局管理局2
12	10月1日	住所を書く
13	10月8日	学校
14	10月15日	学校2、お便り
15	10月22日	銀行1
16	10月29日	銀行2 ATM
17	11月5日	文を書こう
18	11月12日	病院
19	11月19日	問診票、薬
20	11月26日	修了式

受講者について：

・受講者の総数 20 人

出身・国籍別内訳 中国（1人）、韓国（3人）、タイ（2人）、フィリピン（9人）、メキシコ（2人）、アルゼンチン、ナイジェリア、ニュージーランド（各1人）

- 2) 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

講座名称：「生活の漢字」学習支援者養成講座

講座実施期間：2014年7月5日～2014年9月27日

毎週土曜日 13時30分～16時30分 全10回（30時間）

実施場所：大阪市立総合生涯学習センター

実施内容：

回	開催日	トピック
1	7月5日	外国人と文字習得
2	7月12日	漢字学習のシラバスを考える
3	7月19日	漢字学習の体系化
4	7月26日	パソコンを活用した漢字学習支援
5	7月～9月	漢字教室見学1
6	7月～9月	漢字教室見学2
7	9月6日	教材作成1
8	9月13日	教材作成2
9	9月20日	教材発表1
10	9月27日	教材発表2、まとめ、振り返り

受講者について：

- ・受講者の総数 18人（日本国籍18名）

3) 日本語教育のための学習教材の作成

教材名称：日本に住んでいる外国人のための漢字教材および電子書籍版（基礎編）の作成

対象：漢字を学びたいと思う定住外国人

目的・目標：日本に住んでいる外国人のための漢字教材、特に支援者と一緒に漢字を学習する際に用いる教材を作成する。

構成：総ページ数76ページ。また、端末で持ち歩けるようにデジタルコンテンツを1課分作成した。

テーマはカレンダー、問診票、路線図、科目、お便り、住所・都道府県、市役所・区役所、入局管理局を取り扱った。

■事業に対する評価について

- ・目標の達成状況・事業の成果

漢字教室及び養成講座の受講生に実施したアンケート結果及び作成した教材から本事業における目標である「日常生活において必要な漢字を認識すること、また自律して学習することができるようになること」また「漢字学習支援者の養成」は達成できたと思われる。

- ・標準的なカリキュラム案の地域での活用について

作成した教材に、標準的なカリキュラム案と関連する項目がある場合はそれを示した。また養成講座にて受講生に紹介し、活用方法を考えた。標準的なカリキュラム案について気づいた点は、標

準的なカリキュラムは生活場面について様々なケースが挙げられているので参考になるが、会話の習得が主であり、読み書きについては触れられていない。今後は文字習得の側面においても標準的なカリキュラムを作成する必要があると思われる。

・地域の関係者との連携による効果、成果 等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携、協力を得た。大阪市立子育ていろいろ相談センターに保育士の派遣を依頼した。また本事業での実践を活動に取り入れるということで、目黒区多言語絵本の会 RAINBOW 石原弘子氏、大阪大学非常勤 大平幸氏、甲南大学大学院人文科学科 日本語日本文学 大学院生、日本語教室「にほんご・なんば」ボランティア 久保房子氏、北野千晴氏)の見学を受け入れたさらに、地域の別団体との連携という意味で、本講座を修了後に別の日本語教室で継続的に学習ができるように、大阪府下の日本語教室一覧を受講者に配布した。それに加え、授業でインターネットを用い、居住地の近くにある日本語教室の検索の仕方を受講者に紹介した。

・改善点、今後の課題について

漢字教室においては、受講生の漢字についての知識差が大きくあったので、全員に満足できるような授業はできなかつたように思う。そのためレベル別の講座を設ける必要がある。養成講座においては、知識を学びに参加しただけで実践の場がない、または活用しないという受講生も見られた。必要がある場所に漢字学習支援のノウハウを伝えられる方法で養成講座を開く必要がある。漢字学習教材については、教材アプリの作成ができたので、今後の課題としてアプリを使用した学習者の感想を集めたい。事業全体については、受講生や関係者から得られた意見を活用して事業内容を改善することが迅速にできないことが課題である。受講生においても同様に、昨年度漢字教室に参加していても、数ヶ月間があくと内容を忘れてしまう人も少なくない。自分で学習を続けているものの難しい部分があるという意見もある。このように、今後は単発的な事業ではなく、複数年実施できるような形態が必要ではないかと思う。そして将来的には、諸外国のように、定住外国人が無料か格安で生活のための日本語を学べる公的な教室を望む。特に本事業の漢字教室に参加する学習者は日本人の配偶者が多く、今後も日本に住み続ける予定の人々である。このように日本社会の一員として生活する外国人のために生活に必要な日本語を学ぶ教室が求められていると感じた。

【実施場所】大阪市立総合生涯学習センター

【時 期】2014年7月9日～2014年11月26日

【対 象 者】日本に在住している非漢字圏の外国人住民およびボランティアを希望している市民

福祉医療機構助成事業「外国人母子の生活支援ステップアップ事業」

平成 26 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の助成を受け、「言葉や習慣のちがいがから生活困難に陥りやすい外国人母子世帯が、子どもの就学や母親の就労の安定を通じて安定した生活を形成できる状態を実現」することを目的に、「大阪市北部、兵庫県神戸市・尼崎市で暮らす外国人母子を対象として、母子保健・子どもの就学・就労分野での日本語等生活に必要な知識の継続的な習得や個々に抱える課題を相談する機会を提供し、生活向上の契機となる教室」を実施す

る事業を大阪市淀川区・西淀川区・兵庫県尼崎市・神戸市東灘区において実施した。

■対象者と実施内容

1) 大阪市淀川区

対象者主に十三地域で接客業に従事するフィリピン人女性とその子ども支援方針就労のための日本語教室の開催と仕事紹介を中心とした親子教室の開催実施内容日本語教室を毎週開催、親子教室4回実施

2) 大阪市西淀川区

対象者福・出来島地域のフィリピン人・ブラジル人・ペルー人・スリランカ人女性とその子ども支援方針西淀川区と協働して親子教室等を地域の支援者が中心となり開催実施内容親子教室を毎月開催、親子交流会1回開催、支援者向けボランティア養成講座4回開催

3) 兵庫県尼崎市

対象者尼崎市およびその近辺に在住する外国人女性とその子ども支援方針生活向上のためのセミナーを2回開催

4) 神戸市東灘区

対象者東灘区に在住する外国人女性とその子ども支援方針日本人との交流および生活向上のためのセミナー・親子教室を5回開催、親子交流会1回開催

結果

地域	親子教室	のべ参加者 (子どもをもつ親の参加者1名につき1組と算定)
大阪市淀川区	4回開催+日本語教室	184名 (大人178名、子ども6名)
大阪市西淀川区	11回開催+交流会	186名 (大人101名、子ども85名)
兵庫県尼崎市	2回開催	53名 (大人28名、子ども25名)
神戸市東灘区	5回開催+交流会	54名 (大人21名、子ども33名)
合計		477名 (大人328名、子ども149名)

また別途、西淀川区では日本人向けにボランティア養成講座を4回開催し、のべ40名の参加があった。

【実施場所】 大阪市淀川区・西淀川区、兵庫県尼崎市、神戸市東灘区

【時 期】 2014年4月1日～2015年3月31日

【対 象 者】 大阪市淀川区・西淀川区、兵庫県尼崎市、神戸市東灘区在住外国人

公益財団法人大阪国際交流センター委託事業「外国人コミュニティ連携に向けてのプラットフォーム企画・設計業務」

公益財団法人大阪国際交流センターが実施する外国人住民と日本人との多文化共生社会の実現に向けての取組「外国人コミュニティ連携事業」について、企画・設計業務を行った。「外国人コミュニティ連携事業」は5カ年計画であり、平成26年度は1年目となる。具体的な取組は以下の通り。

- 1) 「外国人コミュニティ連携事業」の方向性を議論する本会議に参画。
- 2) 本会議での議論を踏まえて、プラットフォームの企画・設計。
- 3) プラットフォーム運営にかかるwebサイト構築にむけた企画設計の実施。

【時 期】2014年11月1日～2015年3月31日

2 多文化共生に関する研修、調査、研究

講師派遣事業

自治体や国際交流センター等を中心に、全国からの講師派遣の依頼に応えた。依頼内容については、多文化共生概論が多い。講演の他、ワークショップを含めた研修も実施した。

▶ 派遣実績

講演依頼件数：16件、研修依頼件数：6件、会議出席7件

【実施場所】全国

【時 期】通年

【対 象 者】自治体、NPO、研究者、市民等

公益財団法人大阪国際交流センター委託事業「外国人の防災意識調査」

大阪府で暮らす外国人住民が、防災意識を持ち、どのような準備をしているかを把握するために意識調査を行った。その調査をもとに災害時における防災訓練を公益財団法人大阪国際交流センターが実施した。調査概要は以下の通り。

1) 調査の目的

大阪府で暮らす外国人住民が、どこまで防災意識を持ち、準備をしているかを把握するために意識調査を行った。またこの調査をもとに、外国人住民の関心と円滑な災害時対応に資する内容による効果的な訓練モデルを確立することを目的とする。

2) 調査の対象者

大阪府西淀川区在住の外国人住民（日本語教室、西淀川区在住外国人住民キーパーソン、フィリピン雑貨・食材店などの協力を得て抽出）

3) 調査項目

①回答者の属性

年齢、国籍・出身国、性別、在日年数ごとの意識のちがいを検証するため、当該項目を設置した。

②防災意識について

防災意識については、日本人住民との比較を行うため、平成 23 年に大阪市で行われた『「大阪市における震災対策」についての世論調査』と同じあるいは類似した質問項目を設けた。

③情報入手方法について

どのような手段で情報を届けるべきか、情報の伝え方や普段よく利用する情報ツール、交流サイトなどを問うた。

④日本語について

日本で暮らす外国人住民が直面する課題の一つに言葉の壁があげられる。日本語についての質問項目を設けることで、今後の情報提供に生かす。

⑤インタビュー調査

より具体的に外国人住民の声を反映した内容の調査となるようインタビュー調査を実施した。

4) 調査方法

質問紙調査（質問紙については、日本語版、英語版、中国語版、韓国・朝鮮語版、スペイン語版、ポルトガル語版、タイ語版を作成）

インタビュー調査（質問紙回答者より抽出）

5) 回答結果

質問紙調査…回答数 85 人

インタビュー調査…回答数 18 人

【実施場所】大阪市西淀川区

【時 期】2014 年 7 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

【対 象 者】大阪市西淀川区在住の外国人住民

3 多文化共生の概念を普及するための啓発及び情報発信

大阪市西淀川区委託事業「大阪市西淀川区多文化共生事業」

大阪市西淀川区委託事業。本事業を通して、外国人住民と日本人住民の会う場所を提供できた。また、外国人住民の困りごとにポイントを置き、実施した第 2 回交流会「日本のお弁当を作ろう！」については、参加者からの好評価に加え、読売テレビの取材が入り、西淀川区多文化共生事業は区内のみならず、区外からも注目を集めた。また、準備段階から西淀川区出来島に在住するブラジル出身の外国人住民が主体的に関わったことで、区民まつりや第 2 回交流会において多くの外国人住民が参加した。外国人住民が地域活動においても力が発揮でき、地域づくりを担う一員であるということを実感した。具体的な取組は以下のとおり。

1) 西淀川区民まつりにおける多文化共生テントの出店

①日 程：平成26年9月20日(土)12~17時

②内 容：

I 西淀川区における多文化共生についての取組みのパネル展示

ア) 出来島識字日本語交流会

イ) 西淀川区外国人サポートスタッフ

ウ) に～よんステーション「TABUNKA」

エ) QRコード

II ポルトガル語・スペイン語ミニミニ講座

ア) 西淀川区在住のブラジル人・ペルー人によるポルトガル語・スペイン語講座。

簡単な挨拶や各国の文化を紹介。

III 多文化共生をテーマとしたアンケートの実施

③会 場：西淀公園

④事業目的：

西淀川区における多文化共生についての様々な取り組みについて、区民へ紹介する。また、パネル展示だけでなく、外国人住民によるポルトガル語・スペイン語講座や文化紹介を実施することで、区民まつりの参加者と西淀川区の外国人住民が直接触れ合える機会を提供する。

⑤実施報告：

約200人程度がテントを訪れた。そのうち25名がポルトガル語・スペイン語ミニミニ講座を受講した。アンケート回答数は19名であった。

2) 地域交流会の開催

第1回交流会

①日 程：平成26年12月8日(月)10:00~12:00

②事業内容：ワールドクッキング ブラジル・ペルー料理を作ろう！

③会 場：大阪市西淀川区役所栄養指導室

④内 容：区内在住のブラジル人・ペルー人を講師に迎え、南米料理を地域住民と一緒に調理し、食文化を通して交流を図った。あわせて、アンケートを行った。

⑤実施報告：

参加者：大人14名(日本13名、フィリピン1名) 子ども4名(日本3名、フィリピン1名)

スタッフ：

西淀川区役所保健福祉センター 栄養指導員 繁田様

ブラジル人講師、ペルー人講師 各1名

西淀川区食生活改善推進員協議会 さざんか様 4名

大阪市人権啓発推進員西淀川区連絡会 3名

西淀川区役所地域活動支援 垣内様、若松様、萩山様

託児スタッフ 3名

多文化共生センター大阪スタッフ 2名

第2回交流会

①日 程：平成27年1月24日（土）10:00～12:00

②事業内容：ワールドクッキング 日本のお弁当を作ろう！

③会 場：大阪市西淀川区役所栄養指導室

④内 容：子どもの学校行事でお弁当を持参しなければならない場面があるが、外国では日本のようなお弁当を準備する文化がなく、外国にルーツをもつ親はお弁当作りに苦勞している。第2回目の交流会は日本のお弁当作りをテーマに、日本人住民と外国人住民との交流を図った。あわせて、アンケートを行った。

⑤実施報告：

参加者：

大人14名（ブラジル2名、フィリピン2名、スリランカ4名、ペルー3名、日本3名）

子ども14名（ブラジル3名、フィリピン2名、スリランカ2名、ペルー6名、日本1名）

スタッフ：

西淀川区役所保健福祉センター 栄養指導員 繁田様

西淀川区食生活改善推進員協議会 さざんか様 4名

大阪市人権啓発推進員西淀川区連絡会 岸部様

西淀川区役所地域活動支援 課長筒井様、垣内様、萩山様

通訳 2名（英語、スペイン語）

託児スタッフ 4名

多文化共生センター大阪スタッフ 3名

3) レシピ集の作成

第1回、第2回で料理したレシピを多言語化し、区役所に設置を行った。当日参加できなかった住民にも情報提供すると共に、大阪市西淀川区の多文化共生事業の取り組みについても周知するツールとして発行した。

【実施場所】大阪市西淀川区

【時 期】2014年8月5日～2015年3月31日

【対 象 者】一般

多文化共生に関する報告書等の発行

2014 年度書籍売り上げ数

商品名	購入件数
多文化共生に関する自治体の取り組みの現状 ～都道府県および政令市における 多文化共生施策調査報告書～	1
外国人従業員従業員受入れに関する調査報告書 ～外国人研修生・技能実習生受入れに関する意識調査～	3
チェックシート報告書セット	0
チェックシート	0
災害時に役立つ！ 通訳・翻訳ボランティアハンドブック	1
多文化子どもの歌集(セット)	3
多文化子どもの歌集(CD)	0
多文化子どもの歌集(ブックレット)	0
外国人女性住民の相談ニーズ調査	0
多民族共生社会ニッポンとボランティア活動	1
委託販売(子どもの歌集)	3
合計	12

【実施場所】 全国

【時 期】 通年

【対 象 者】 自治体、企業、NPO、研究者、市民等

4 前各号を実施するための、その他の支援事業

株式会社グローバルコンテンツ委託事業「翻訳作業等事務委託」

株式会社グローバルコンテンツが開発するアプリの翻訳作業について委託を受けた。

【時 期】 通年

IV. 社員総会の開催状況

2014 年度会員総会

1. 日 時 2014 年 5 月 29 日(木)19:00～20:30

2. 場 所 (特活) 多文化共生センター大阪 事務所
大阪市淀川区十三東 2-6-7 徳島ビル 2F

3. 出席者数

会員総数 20名 出席 17名 (本人出席: 6名、委任状出席: 11名)

定款第 27 条により、会員数 3 分の 1 以上の出席があり定足数を満たしているため、当総会が成立していることを確認した。

4. 議長、議事録署名人の選任

議長として、理事会より中村満壽央が推薦され、満場一致で選任された。

議長が議事録署名人の選任について出席者に図ったところ、議長一任の声があった。議長は、議事録署名人として、堀西雅亮、坪内好子を指名した。

5. 議事の経過及び結果

第 1 号議案 2013 年度活動報告及び 2013 年度会計報告について承認を求める件

事務局より 2013 年度活動報告及び 2013 年度会計報告についての説明があり、議長がその承認を求めたところ、満場一致で承認、可決した。

第 2 号議案 2014 年度活動計画 (案) 及び 2014 年度活動予算 (案) について承認を求める件

事務局より 2014 年度活動計画 (案) 及び 2014 年度活動予算 (案) についての説明があり、議長がその承認を求めたところ、満場一致で承認、可決した。

第 3 号議案 2014 年度役員選任について承認を求める件

議長は、2014 年度役員選任案を示し、その承認を求めたところ、満場一致で承認、可決し、各人はその場で就任を承諾した。

理事	田村太郎
理事	堀西雅亮
理事	中村満壽央
理事	東口千津子
理事	永井美佳
理事	山本千恵
理事	坪内好子
監事	勇上澄子

V. 理事会その他の役員会の開催状況

第 1 回理事会

日 時: 2014 年 6 月 10 日 (火)

場 所: (特活) 多文化共生センター大阪事務所

審議事項:

1. 理事の互選について